JBL CINEMA SB350

2.1chホームシアターシステム

取扱説明書

安全上のご注意

■ 使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。また、お読みになった後は大切に保管してください。

■ ここに示した注意事項は、お使いになる人や、他の人への危害、財産への損害を未然に防ぐための内容を記載していますので、必ずお守りください。

■ 次の表示の区分は、表示内容を守らず、誤った使用をした場合に生じる危害や損害の程度を説明しています。

⚠ **警告**	この表示は、取り扱いを誤った場合、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
⚠ **注意**	この表示は、取り扱いを誤った場合、「傷害を負う可能性が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される」内容です。

■ 次の絵表示の区分は、お守りいただく内容を説明しています。

- 禁止（してはいけないこと）を示す記号です。
- 分解してはいけないことを示す記号です。
- 濡れた手で扱ってはいけないことを示す記号です。
- 触れてはいけないことを示す記号です。
- 水がかかる場所で使用したり、水に濡らしたりしてはいけないことを示す記号です。
- 指示に基づく行為の強制（必ず実行していただくこと）を示す記号です。
- 電源アダプタをコンセントから抜いていただくことを示す記号です。

⚠ 警告

電源コードは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。
万一の場合、電源コードを容易に引き抜くためです。

付属品以外の電源コードは使用しない。
火災の原因になることがあります。

付属品の電源コードを他の機器に転用しない。
火災の原因になることがあります。

船舶などの直流（DC）電源には接続しない。
火災の原因になります。

電源コードを束ねた状態で本機を使用しない。
火災・感電の原因になります。

電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしない。
電源コードが破損して火災・感電の原因になります。

電源コードが破損した場合（芯線の露出や断線など）には、販売店または弊社東京サービスセンターに交換（有償）を依頼する。
そのまま使用すると火災・感電の原因になります。

タコ足配線しない。
発熱により火災・感電の原因になります。

テーブルタップ（延長コード）を使用しない。
発熱により火災・感電の原因になります。

雷が鳴りはじめたら、電源アダプタには触れない。
感電の原因になります。

電源コードの上に重いものをのせたり、電源コードを本機の下敷きにしない。
電源コードが破損し、火災・感電の原因になります。

煙が出る場合、異常なにおいや音がする場合は、すぐに電源コードをコンセントから抜く。
煙が出なくなるのを確認して販売店または弊社東京サービスセンターに修理を依頼してください。

水道の蛇口付近や風呂場などの濡れている場所や水気の多い場所では使用しない。
火災・感電の原因になります。

本機の内部に水などが入った場合は、電源コードをコンセントから抜いて販売店または弊社東京サービスセンターに点検を依頼する。
そのまま使用すると火災・感電の原因になります。

本機の内部に異物を入れない。
万一、本機の内部に異物が入った場合は、電源コードをコンセントから抜いて販売店または弊社東京サービスセンターに点検をご依頼ください。そのまま使用すると火災･感電の原因となります。

アルコール・シンナーなどの引火性溶剤の近くに設置しない。
引火性溶剤が本機内部の電源部品などに接触すると、火災や感電の原因になります。

⚠ 警告

分解や改造をしない。
感電の原因になります。

調理台や加湿器の近くなど油煙や湯気があたる場所に設置しない。
火災・感電の原因になることがあります。

直射日光があたる場所や、温度が異常に高くなる場所（暖房機のそばなど）に設置しない。
キャビネットや内部回路に悪影響が生じ、火災の原因になることがあります。

オーディオ機器を接続するときは、それぞれの機器の取扱説明書に従い、指定のケーブルを使用して接続する。
指定以外のケーブルを使用すると発熱し、やけどの原因になることがあります。

⚠ 注意

濡れた手でコンセントを抜き差ししない。
感電の原因になります。

長期間本機を使用しないときは、電源コードをコンセントから抜く。
火災・感電の原因になります。

電源コードを抜くときは、電源コードを引っぱらない。
電源コードが破損して火災・感電の原因になることがあります。

電源コードは、コンセントの根元まで確実に差し込む。
電源コードを正しく差し込まずに本機を使用すると、火災や感電の原因になります。

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。
ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因となります。

不安定な場所や振動する場所に設置しない。
本機が落下や転倒して、けがの原因となります。

移動するときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。
接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また、接点復活剤を使用しない。外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

電池についてのご注意

電池の液が漏れたときは直ちに火気より離す。
漏液した電解液に引火し、破裂、発火する原因になります。また電池の液が目に入ったり体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因になります。
●液が漏れたとき
→漏れた液に触れないように注意しながら、直ちに火気より離してください。乾いた布などで電池ケースの周りをよくふいてください。
●液が目に入ったとき
→目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で十分洗い、ただちに医師の診察を受けてください。
●液が体や衣服についたとき
→すぐに水道水などのきれいな水で十分洗い流してください。

電池について以下のことに注意する。
本製品のリモコンはリチウム電池を使用しています。リチウム電池にはリチウムが含まれており、誤った使用、取り扱い、廃棄により爆発する恐れがあります。
●火の中に入れたり、加熱したりしないでください。また、直射日光のあたる場所、高温多湿の場所、車中等に放置しないでください。
●使用中、保管時等に発熱したり、異臭を発したり、変色、変形、その他今までと異なる場合は使うのを止めてください。
●電子レンジや高圧容器に入れないでください。
●水、海水、ジュースなどで濡らさないでください。
●強い衝撃を与えたり、投げつけたりしないでください。

Bluetooth® に関するご注意

本機は、2.4GHz の周波数帯の電波を利用しています。この周波数の電波は、一般家庭でもいろいろな機器（電子レンジやコードレス電話など）で使用されています。
以下のような場所で本機を使用する場合、送信 / 受信ができなくなることがあります。

- 2.4GHz を利用する無線 LAN、また電子レンジなどの機器の磁場、静電気、電波障害が発生するところ。（環境により電波が届かない場合があります。）
- ラジオから離してお使いください。（ノイズが出る場合があります。）
- テレビにノイズが出た場合、本機（および本機対応製品）がテレビ、ビデオ、BS チューナー、CS チューナーなどのアンテナ入力端子に影響を及ぼしている可能性があります。本機（および本機対応製品）をアンテナ入力端子から遠ざけて設置してください。

⚠ 注意

- 本機の使用によって発生した損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切の責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。
- 本機は、全ての Bluetooth 機器との接続動作を保証するものではありません。
- 弊社ではお客様の接続機器に関する通信エラーや不具合について、一切の責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

安全にお使いいただくために

- 高精度な制御や微弱な信号を取り扱う電子機器の近くでは使用しないでください。電子機器に誤動作するなどの影響を与え、事故の原因となる恐れがあります。
- 航空機内や病院など、使用を禁止された場所では使用しないでください。電子機器や医療用電気機器に影響を与え、事故の原因となる恐れがあります。医療機関などの指示に従ってください。

ご注意いただきたい電子機器の例

補聴器、ペースメーカー、その他医療用電気機器、火災報知器、自動ドア、その他自動制御機器など。
ペースメーカー、その他医療用電気機器をご使用される方は、該当の各医療用電気機器メーカーまたは販売業者に電波による影響についてご確認ください。

電波法に基づく認証について

本機は電波法に基づく小電力データ通信の無線設備として認証を受けています。従って、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。
ただし、以下の行為を行うと法律により罰せられることがあります。

- 本機を分解／改造すること。
- 本機に貼ってある証明ラベルをはがすこと。

周波数について

この無線機器は 2.4GHz 帯を使用します。変調方式として FHSS（周波数拡散方式）を採用し、想定される与干渉距離は約 10m です。

2.4 FH 1

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業･科学･医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

1 この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認して下さい。
２万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに電波の発射を停止した上、弊社東京サービスセンターにご連絡頂き、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談ください。
３その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、弊社東京サービスセンターへお問い合わせください。

機器認定について

本機は、電波法に基づく省電力データ通信システムの無線設備として認証を受けています。したがって、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。
ただし、以下の事項を行うと法律により罰せられることがあります。

- 本機を分解 / 改造すること

はじめに

このたびは、JBL CINEMA SB350 をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

SB350 は、映画館の臨場感と迫力をご家庭のリビングルームで実現するために特別に設計されたシステムです。末永くご愛用いただき、聴く楽しさをご堪能ください。

本システムには、高度な電子部品や最先端のスピーカーコンポーネントが組み込まれていますが、セットアップや操作は簡単です。このホームシアターから聴く楽しさを最大限に引き出していただくために、まずは本書をご一読ください。

付属品の確認

本システムに同梱されている付属品は、以下のとおりです。

- サウンドバー本体 1 台

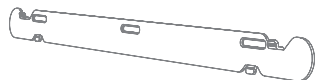
- 電源ケーブル（サウンドバー接続用）（1.4 m）1 本

- アナログ音声ケーブル（1.1 m）1 本

- 光デジタルケーブル（1.1 m）1 本

- HDMI ケーブル（1.1 m）1 本

- リモコン 1 個

- 壁取り付け用ブラケット 1 個

- ワイヤレスサブウーファー 1 台

- 電源ケーブル（ワイヤレスサブウーファー接続用）（1.4 m）1 本

- クイックセットアップガイド 1 冊
- 取扱説明書（本書）
- 品質保証書 1 枚

本システムの特長

◆ 2.1ch ホームシアターシステム

55mm 径ミッドレンジドライバーに 32mm 径ドームツイーターの 2Way+ サブウーファーを総合 320W でドライブ。“HARMAN Display Surround”モードでは、迫真のサウンドと臨場感を演出します。“Stereo”モードにすれば、高音質な Hi-Fi スピーカーとして JBL サウンドを楽しめます。

◆ 迫真のサウンドと臨場感

JBL CINEMA SB350 は、ハイパワー出力により、大迫力のサウンドと微細なニュアンスを明瞭に表現します（最大出力 320W）。

独自の“HARMAN Display Surround”モードにより、圧倒的な迫力と臨場感を演出します。

◆ かんたん接続＆スッキリ設置

TV との接続は、HDMI ケーブル 1 本と面倒な作業が不要です。

サウンドバーとサブウーファーをワイヤレスで接続。スピーカーケーブルの配線が不要なので、設置の自由度が向上。付属の金具で壁掛けも可能です。

◆ JBL のクオリティサウンドをリビングに

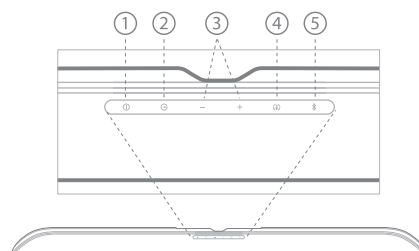
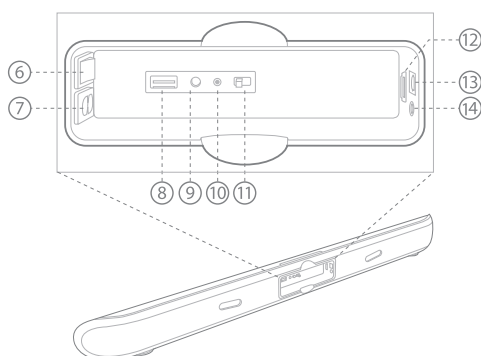
“Stereo”モードにすれば、通常のリビングスピーカーとしてパワフルでナチュラルな高音質のサウンドをお届けします。

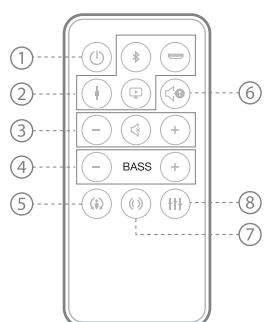
◆ Bluetooth 機能搭載

Bluetooth 対応により、スマートホン、PC、タブレットなど Bluetooth 対応機器に保存された音楽をワイヤレスで簡単に操作できます。

各部の名称

< サウンドバー上面 >

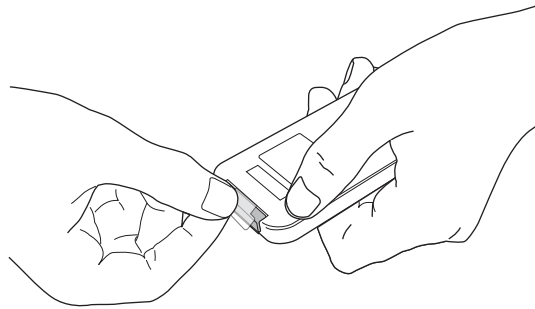
① 電源（⏻）ボタン
② ソース（）ボタン
③ 音量（–/+）ボタン
④ Harman Display Surround（）ボタン
⑤ Bluetooth（）ボタン

< サウンドバー背面 >

⑥ 電源スイッチ
⑦ AC IN（AC 電源入力）端子
⑧ USB ポート（ソフトウェアのアップデート専用）
　この USB ポートは、本システムのファームウェアアップデート専用です。
⑨ PAIRING（ペアリング）インジケーター
⑩ SUBWOOFER PAIRING（ペアリング）ボタン
⑪ WALL/TABLE EQ スイッチ
⑫ HDMI（ARC 対応）端子
　※ ARC（オーディオリターンチャンネル）
⑬ OPTICAL（光デジタル音声入力）端子
⑭ AUX IN（アナログ音声入力）端子

< リモコン >

① 電源（⏻）ボタン
② ソースボタン
③ 音量（–/+）ボタン
　ミュート（）ボタン
④ サブウーファー音量（–/+）ボタン
⑤ VIRTUAL SOUND（Harman Display Surround）（）ボタン
⑥ FEEDBACK（）ボタン
⑦ STEREO（）ボタン
⑧ HARMAN VOLUME（）ボタン

準　備

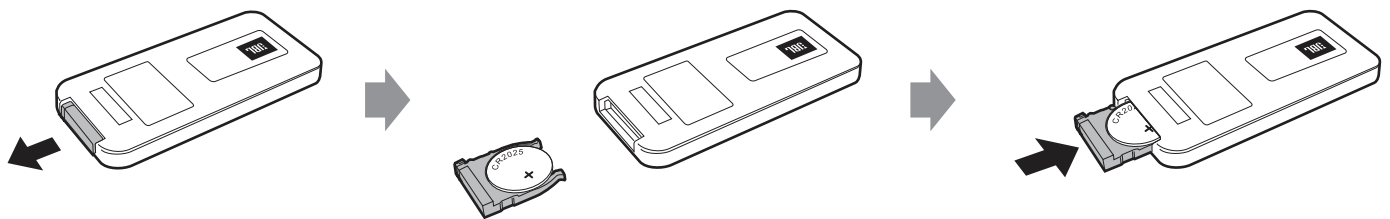
リモコンに電池を入れる

リモコンにはあらかじめ電池が入れられています。お使いになる前に、絶縁フィルムを引き抜いてください。

• 付属の電池は動作確認用です。寿命が短いことがありますが、ご了承ください。

電池を交換する際は、以下の手順で行います。

① 電池ぶたを開ける。

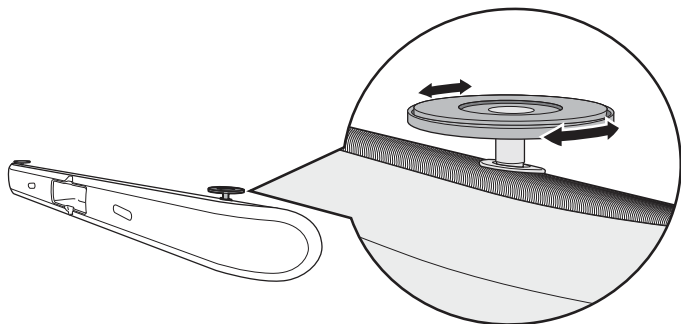
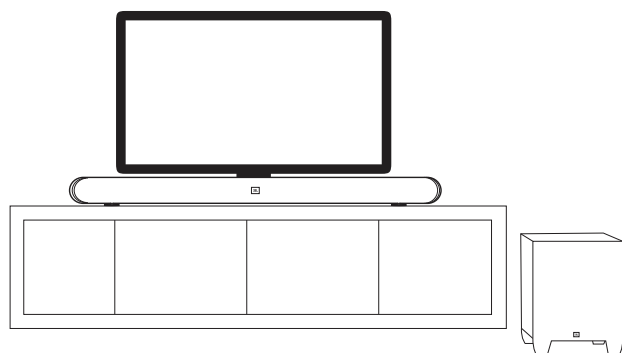
② 古い電池を取り出し、新しい電池（CR2025）と交換する。

③ 電池ぶたを閉める。

ご注意：

• 指定のリチウム電池（CR2025）を正しく入れてください。逆に入れたり、確実に入っていないと発熱・変形・液漏れ・故障の原因になります。
• 長期間使わないときは、電池を取り出してください。リモコン内で電池が液漏れを起こす場合があります。
• 万一液漏れが起こったときは、よくふき取って新しい電池を入れてください。
• 保証期限を過ぎた電池や、一部海外メーカーの電池を使用した場合、電池電圧が大きく変動するため、使用時間が極端に短くなったり、正常な動作をしなくなったりします。
• 不要となった電池の廃棄は、各自治体の指示（条例）に従ってください。
• リモコン操作の際は、サウンドバーのリモコン受光部に向けて操作してください。
• サウンドバーのリモコン受光部に、直射日光や照明器具の強い光があたらないようにしてください。
• リモコンの操作可能範囲の目安は正面から約 3m、左右 30 度以内です。

本システムを設置する

サウンドバーをテレビ台の上に設置する

① サウンドバー下部のスタンドを回して、高さを調整します。

② サウンドバーをテレビ台やテーブルなどの上に設置します。

サブウーファーを設置する

サブウーファーを平らな床に設置します。故障や破損の原因になりますので、斜面や段差のある場所に設置しないでください。

視聴する位置やサブウーファーの位置を変えながら実際にお試しになり、低音性能が最適になる場所を特定し、サブウーファーを設置することをおすすめします。(サウンドバーとサブウーファーの最大無線動作距離は 15m です。)

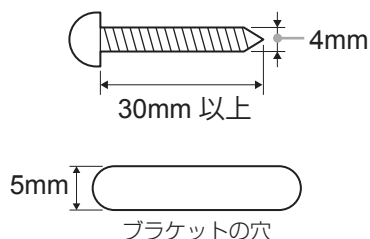
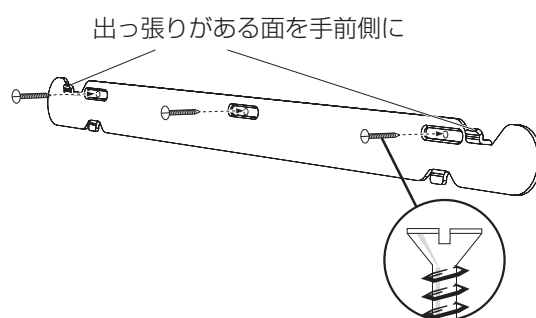
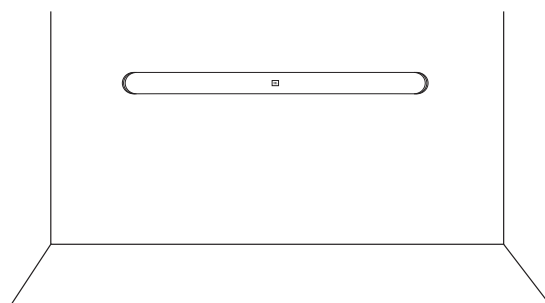
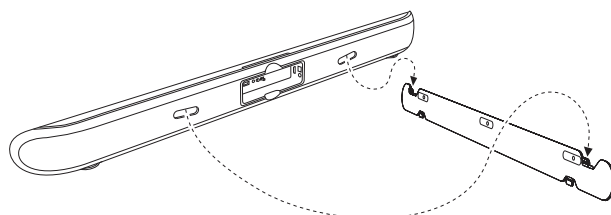
サウンドバーを壁に取り付ける

以下の手順で、サウンドバーを壁に取り付けることができます。

- 販売店や工事店に依頼して、安全面に十分考慮しながら確実な取り付けを行ってください。
- 取り付けの不備、取り付け強度不足、誤使用、天災などによる事故、損傷につきましては、当社は一切責任を負いません。

ご注意 :

- 壁取り付け用のネジは付属していません。壁の材質によっては破損する恐れがありますので、壁の材質や強度に合わせたネジを使用してください。
- ネジは壁の裏にある柱や梁にしっかりと固定してください。
- サウンドバーは補強された壁に水平に取り付けてください。

1. 壁取り付けブラケットの穴に合う市販のネジを用意します。

2. 壁面で、サウンドバーの取り付け場所を決定します。
3. 壁取り付けブラケットを、壁面に固定します。
   ネジにゆるみがないように、しっかりと取り付けてください。

4. サウンドバー背面の WALL/TABLE EQ スイッチ (8 ページ参照) を WALL 側にします。
5. 壁取り付けブラケットにサウンドバーを取り付けます。
   サウンドバー背面のブラケット差込口に、しっかりと押し込んで取り付けます。
   このとき、片方の差込口に負担がかかると落下するおそれがありますので、サウンドバーを水平にした状態で差し込んでください。

接　続

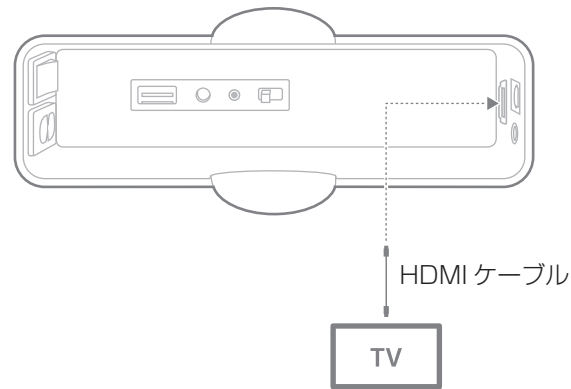
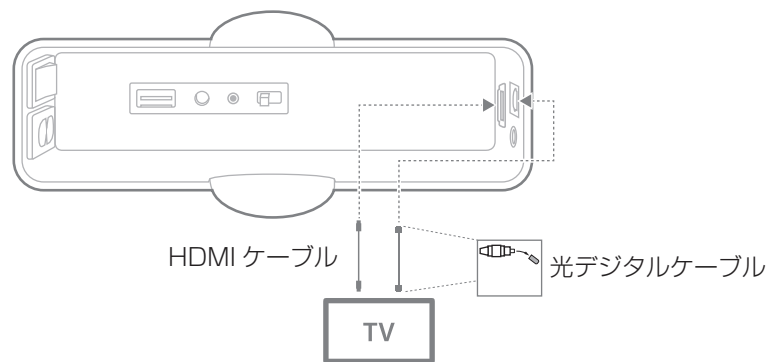
テレビに接続する

お使いのテレビが ARC に対応している場合、テレビ側の ARC 設定を有効にしてください。設定方法については、お使いのテレビの取扱説明書を参照してください。(お使いのテレビによっては、ARC に対応していても正常に動作しない場合があります。)

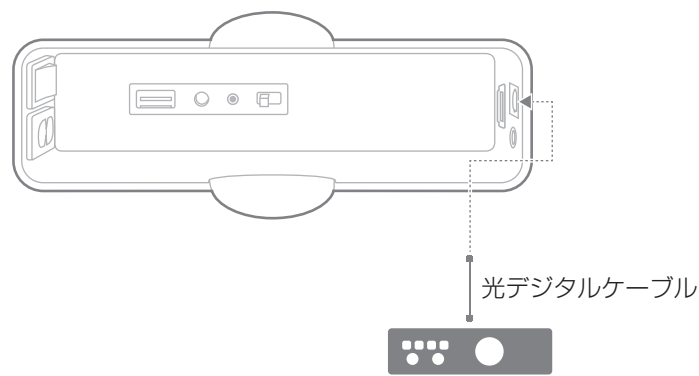
<ARC 対応のテレビに接続する場合 >

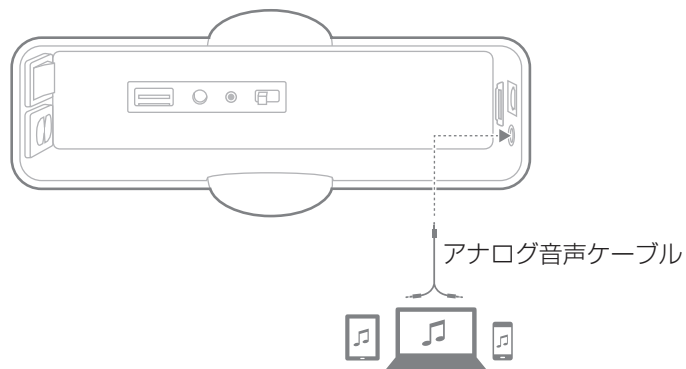
付属の HDMI ケーブルを使用して、本機の HDMI 端子とテレビの ARC に対応した HDMI 端子に接続します。

・テレビ側の ARC 設定を有効にしてください。設定方法については、お使いのテレビの取扱説明書を参照してください。

<ARC に対応していないテレビに接続する場合 >

お使いのテレビが ARC に対応していない場合、HDMI 接続に加え、光デジタルケーブルまたはアナログケーブルを使用して、本機とテレビを接続してください。

デジタル機器を接続する

付属の光デジタルケーブルを使って、本機背面の OPTICAL 端子と、光デジタル出力に対応している PC やテレビ、オーディオ機器などと接続します。

• 本機の OPTICAL（光デジタル）端子は「角型」になります。

オーディオ機器を接続する

付属のアナログ音声ケーブルを使って、本機背面の AUX IN 端子とオーディオ機器を接続します。

電源の接続

ソース機器の接続がすべて完了したら、電源に接続します。

1. サウンドバーの AC IN 端子に、電源ケーブルを接続します。
2. 電源ケーブルのプラグを壁面のコンセントに接続します。
3. 電源ケーブルをサブウーファーに接続し、電源ケーブルのプラグを壁面のコンセントに接続します。

HDMI 機器制御機能を使う

HDMI 機器制御機能に対応している製品と HDMI ケーブルで接続すると、以下のような機能を使って操作を簡単に行うことができます。

- 製品により、対応しないものがあります。
- 接続している機器の設定によっては、HDMI 機器制御機能が働かないことがあります。お使いの機器に付属の取扱説明書も合わせてご覧ください。

電源オフ連動

テレビの電源オフに連動して、本機に接続している機器の電源もオフにすることができます。

システムオーディオコントロール

テレビを視聴しているときに本機の電源をオンにすると、テレビの音声は自動的に本システムから出力されます。テレビの音量を調節すると、本システムの音量を調節できます。(ARC 対応のテレビに接続しているときのみ)

オーディオリターンチャンネル

オーディオリターンチャンネル（ARC）機能に対応したテレビの場合は、HDMI ケーブルを接続するだけで、テレビの音声を本システムのスピーカーで聞くことができます。

お使いのテレビのリモコンで本機を操作する

お使いのテレビのリモコンで、本機の以下の操作を行えるよう設定することができます。

- 音量調整
- ミュート
- 電源オン / オフ

ご注意

お使いのテレビによって対応していない場合があります。

① サウンドバーのインジケーターがオレンジ色に点滅するまで、サウンドバーの Harman Display Surround（ ）ボタンを押し続けます。

② 音量＋の設定を行います。
サウンドバーの音量＋ボタンを押したあと、テレビリモコンの音量＋ボタンを押します。
サウンドバーのインジケーターがオレンジ色 (点滅) から白 (点灯) に変わり、機能が記憶されます。次の手順に進むには、インジケーターが白 (点灯) からオレンジ (点滅) に変わるまでお待ちください。

③ 音量－の設定を行います。
サウンドバーの音量－ボタンを押したあと、テレビリモコンの音量－ボタンを押します。

④ ミュートの設定を行います。
サウンドバーの音量＋と音量－ボタンを同時に押したあと、テレビリモコンのミュートボタンを押します。

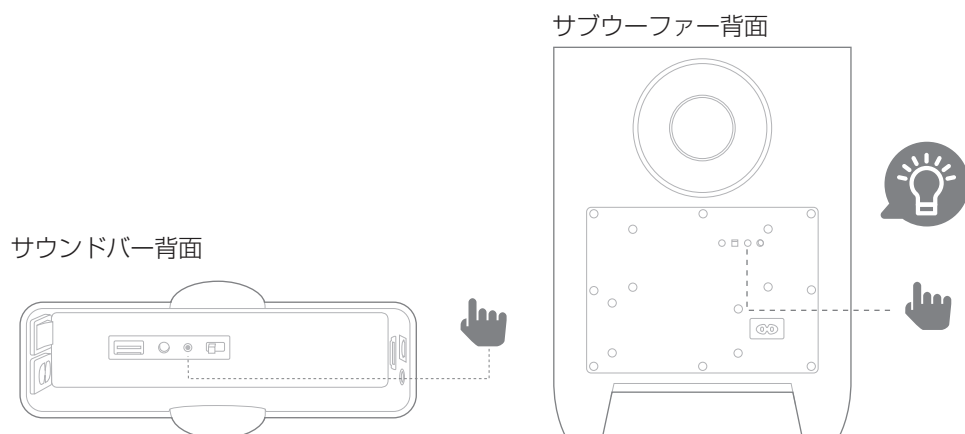
⑤ 電源オン / オフの設定を行います。
サウンドバーの電源 (⏻) ボタンを押したあと、テレビリモコンの電源ボタンを押します。

⑥ インジケーターの点滅が止まるまで、サウンドバーの Harman Display Surround（ ）ボタンを押し続けます。

サウンドバーとサブウーファーの接続

サウンドバーとワイヤレスサブウーファーの電源を初めてオンにする際、ワイヤレス接続の設定をする必要があります。

接続を行うには、サウンドバーとサブウーファーいずれかの PAIRING ボタンを押し、30 秒以内にもう片方の PAIRING ボタンを押します。

お知らせ：サウンドバーとサブウーファーの最大無線動作距離は 15m です。

接続されると、サウンドバーおよびサブウーファー背面のインジケーターは点滅をやめ、青く点灯します。

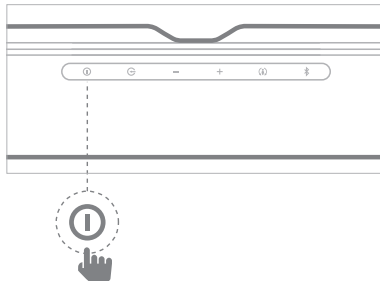
ご注意：PAIRING（ペアリング）スイッチが押されない状態が 30 秒以上続くと、サブウーファーは、自動的にスタンバイモードになります。

サブウーファーのオン / オフ

サブウーファーは、音声信号を検出すると自動的にオンになり、サウンドバーがスタンバイモードになるとスタンバイモードに戻ります。

基本操作

電源をオン / オフする

① サウンドバー裏面の電源スイッチをオンにします。
② 電源（⏻）ボタンを押します。

電源の状態は、電源ボタン上のインジケーターで確認できます。

- オレンジ：電源オフ（スタンバイ）
- 白：電源オン

電源がオフのときに、電源ボタンを押すと、電源がオンになります。

また本システムには、以下の機能が搭載されています。

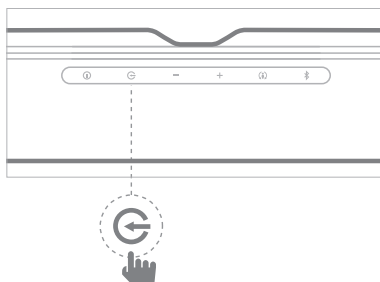
オートスタンバイ

本システムは、約 10 分間どのソース入力でも音声信号が検出されないと、自動的にスタンバイモードになります。

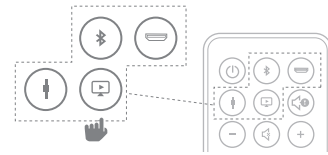
本システムを、お使いのテレビのリモコンのオン / オフコマンドに応答するように設定した場合は、テレビの電源をオフにすると同時に、本システムもスタンバイモードにすることができます。

重要：長期間留守にする場合や、長期間本システムを使用しない場合は、サウンドバー裏面の電源スイッチをオフにしておくことをおすすめします。

ソースを切り替える

サウンドバーの ⊖（ソース）ボタンを押します。

ボタンを押すたびに、インジケーターの色が変わり、ソースが切り替わります。

白：HDMI 入力
緑：アナログ入力 (AUX IN)
オレンジ：デジタル入力 (OPTICAL IN)

リモコンの場合は、ソースボタンを押してソースを選択します。

テレビの音を聞くには

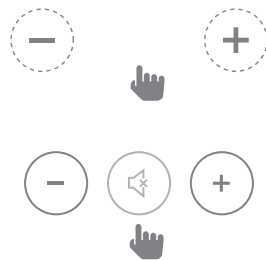
1. テレビの電源をオンにします。
2. サウンドバーの電源をオンにします。
   サウンドバー背面の電源スイッチをオンにしたあと、電源 (⏻) ボタンを押します。
3. サウンドバーの入力を「HDMI」に設定します。
   リモコンの HDMI ボタンを押す、またはサウンドバーのソース（⊖）ボタンを繰り返し押して、「HDMI」を選びます。

ARC 対応テレビに接続している場合、テレビの「スピーカー出力」の設定を「外部スピーカー」に設定します。

設定画面の表示方法および設定方法は、お使いのテレビによって異なります。

お使いのテレビの取扱説明書も合わせてご覧ください。

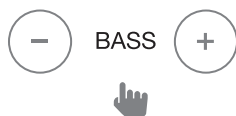
音量を調整する

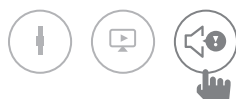
サウンドバーまたはリモコンの音量（–/+）ボタンを押します。

ミュート（消音）状態にする

リモコンのミュート（ ）ボタンを押します。サウンドバーの場合は、＋と－ボタンを同時に押します。

ミュート中は、電源ボタンのインジケーターが白く点滅します。もう一度押すと解除されます。

サブウーファーの音量を調整する

リモコンのサブウーファー音量ボタン（–/+）ボタンを押します。

サブウーファーの音量をモニタリングしながら調整する

フィードバック機能をオンにすると、リモコンのサブウーファー音量ボタンを押すごとに音が鳴り、音量のレベルをモニタリングしながら確認することができます。

ステレオモードを使用する

リモコンの STEREO ボタンを押すと、ステレオモードがオンになります。

ステレオモードのときは、サウンドバーのサラウンドボタンのインジケーターが白く点灯します。

サラウンドモードを使用する

サウンドバーまたはリモコンの VIRTUAL SOUND（Harman Display Surround）（ ）ボタンを押すと、サラウンドモードがオンになります。

サラウンドモードのときは、サウンドバーのサラウンドボタンのインジケーターがオレンジに点灯します。

Harman Volume を使用する

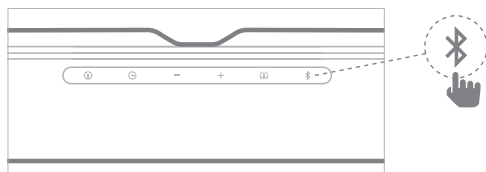
Harman Volume は、再生音量を調節するための高度なデジタル信号処理技術です。Harman Volume をオンにすると、TV 番組、映画、CM などコンテンツによる音量のばらつきを自動調整し、音量を均一化します。

リモコンのHARMAN VOLUME（ ）ボタンを繰り返し押して、オンとオフを切り替えることができます。

※より高音質で聴きたい時は「オフ」にする事をおすすめします。

Bluetooth 接続を行う

スマートホンやタブレットなど、Bluetooth 対応デバイスを使ってワイヤレス再生を行うには、以下の手順を実行します。

1. Bluetooth（✻）ボタンを押してペアリングモードにします。
   Bluetooth（✻）ボタンが青く点滅します。

2. 接続したいデバイスをペアリングモードにします。
3. デバイスでペアリング操作を行い、登録 / 接続します。
   Bluetooth に接続できるデバイスの一覧が表示されます。
4. デバイスから「CINEMA SB350」を選択します。

接続が完了すると、デバイス上で「接続されました」と表示されます。

Bluetooth 接続中は、サウンドバー上の Bluetooth（✻）ボタンのインジケーターが点灯します。

ご注意：初めてペアリングを実行した場合、デバイスの音量レベルが最大にセットされることがあります。この現象は、最初のペアリング時のみに発生するもので、ペアリング完了後に手動で音量を調整してください。

アプリケーションをインストールする

初めて接続した場合、無料アプリ (JBL Music) をインストールするかどうかのメッセージが表示されます。「はい」をタップすると、ダウンロード画面が表示されます。

ご注意：JBL Music をインストールしなくても本システムはお使いいただけますが、本システムのファームウェアのアップデートは、JBL Music 経由で行う必要があります。

Bluetooth 再生を行う

デバイスの音声を聞くには、デバイス上で再生を始めます。

Bluetooth 再生中にサウンドバーでソースを切り替えた場合は、接続したデバイスの再生を自動的に停止します。

Bluetooth 接続した機器を切り替える

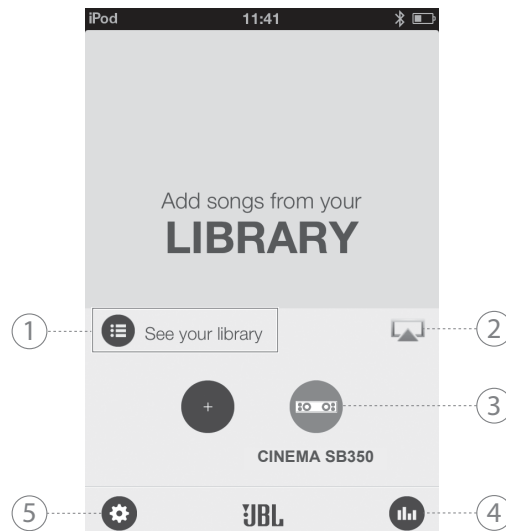
本システムは、Bluetooth 接続したデバイスを 10 機まで記憶できます。

Bluetooth 接続を解除する

サウンドバーの Bluetooth（✻）ボタンのインジケーターが点滅するまで、Bluetooth（✻）ボタンを長押しします。

または、デバイスの Bluetooth を「OFF」にします。

JBL Music について

JBL Music は、本システムの操作、プレイリストの作成やファームウェアのアップデートを行うことができます。

① タップして曲やプレイリストを選択します。
② タップして音楽を再生するスピーカーを選択します。(本システムまたはデバイスのスピーカー)
③ タップすると、操作パネルが表示され、デバイスをリモコン代わりに使用することができます。
④ デバイスの音量を調整します。
⑤ アプリの各種設定を行います。本システムのファームウェアをアップデートも、こちらで行います。(ファームウェアのアップデートが発生した場合、ハーマンインターナショナルのウェブサイトにてご案内いたします。)

サブウーファーの位相調整（0-180°）

PHASE スイッチを使用して、サブウーファーから出力される低域信号の位相を切り換えます。

サウンドバーとサブウーファーの位置やリスニングポジションからの距離などの関係で、低域がスムーズにつながらない時があります。0°と 180°の両方で再生し、低音量が低下しない方を選択してください。

トラブルシューティング

本機が正しく動作しない場合、修理をご依頼される前に、以下の点をご確認ください。

問題	解決法
サウンドバーの電源がオンにならない	• サウンドバーの電源コードが正しく接続されているかご確認ください。
サブウーファーの電源がオンにならない	• サブウーファーの電源コードが正しく接続されているかご確認ください。
サウンドバーおよびサブウーファーの両方から音が出ない	• サウンドバーの電源がオンになっていることを確認してください（オンの場合、電源インジケータが白く点灯します。）。 • テレビまたはその他のソース機器と、サウンドバーを接続しているケーブルの両端が、正しく接続されているかどうか確認してください。 • サウンドバーでソースが正しく設定されているかどうかをチェックし、そのソースから音声信号が再生されているか確認してください。 • システムがミュートになっていないかを確認してください。ミュートになっている場合、音量ボタンを押して、ミュートを解除します。 • サウンドバーの音量が、最も低い値に設定されていないか確認してください（音量を最も低い値に設定すると、システムはミュートになります）。
サブウーファーからだけ、音が出ていない	• サブウーファーの音量コントロールが、最も低い値に設定されていないか確認してください。 • ワイヤレス接続がアクティブであることを確認してください（サブウーファーの背面の青い LED が常灯します）。 LED が青に点滅している場合は、再度ペアリングを行ってください。 • サブウーファーをサウンドバーの近くに移動します。最大無線動作距離は、15m です。
音が歪む	• 音量が上がりすぎている場合は音量を下げてください。また、再生中の曲が原因の場合もありますので、別の曲をお試しください。
低音の出力の大きさが十分でない	• サブウーファーの音量レベルが最小に設定されていないかを確認してください。 • 部屋のコーナーにサブウーファーを設置している場合、位置を変えてみてください。 • サブウーファーを座っている位置の近くに移動してください。
システムををオフにしたら、音量がリセットされた	• 電源オフ時に、サウンドバーで最大音量の 50% 以上で再生していた場合、次に電源をオンにしたときに、自動的に最大音量の 50% にリセットされます。
テレビの電源がオンで、本システムがスタンバイ状態のときに、テレビの電源をオフにすると、本システムがオンになる	• 異なるホットプラグ検出（HPD）プロトコルが使用されている一部のテレビで発生することがあります。 この場合、本サウンドバーのサラウンドボタンと音量 – ボタンを同時に押すことにより、HPD プロトコルを有効 / 無効にすることができます。

お手入れ

外装の汚れは、乾いた柔らかい布で軽くふき取ってください。汚れがひどいときは、中性洗剤を薄めた液を少し含ませた布でふき、その後乾いた布でふき取ってください。

主な仕様

音声入力	HDMI（ARC）× 1、Bluetooth × 1、光デジタル ×1、アナログ ×1
最大出力	総合 320W
使用ユニット	サウンドバー：55 mm 径ミッドレンジドライバー ×3、32 mm 径ドームツイーター ×4 サブウーファー：165 mm 径ウーファードライバー ×1
周波数特性	45 Hz ～ 20 kHz
Bluetooth	バージョン：Bluetooth3.0
サイズ	サウンドバー：幅 1000 × 高さ 78 × 奥行き 62 mm（本体のみ） サブウーファー：幅 242 × 高さ 320 × 奥行き 242 mm
質量	サウンドバー：3.3 kg サブウーファー：4.8 kg

HARMAN Owners' Club

この度は JBL 製品をご購入いただき誠にありがとうございます。HARMAN Owners' Club（ハーマンオーナーズクラブ）は、ハーマンインターナショナル取り扱い製品ご愛用者のための会員プログラムです。
会員様に向けたさまざまな特典やサービスをお届けします。

https://www.harman-ownersclub.jp

このアドレスからアクセスしてください。
携帯電話からはご登録できませんのでご注意ください。

アフターサポート

日本国内のアフターサポートに関する情報は、ハーマンインターナショナル株式会社ホームページに掲載しています。

http://jbl.harman-japan.co.jp/support/

Tel：0570-550-465（ナビダイヤル）
受付時間：土日・祝日を除く、平日 9:30 ～ 17:30

14111000